

# 第60回近畿高等学校ソフトボール選手権大会（女子の部）

《大会速報》 試合番号 25

第3日	2017年07月17日	準決勝	みなと堺グリーンひろばD
開始時間 : 09時24分	終了時間 : 11時36分	中断時間 : 00時間00分	試合時間 : 02時間12分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	安打	失策
京都西山高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1				1	5	2
神戸野田高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	9	0

	京都西山高等学校	神戸野田高等学校		京都西山高等学校	神戸野田高等学校
バッテリー	(投手) ○上村 紗輝	(投手) ●佐保 知里	長打 (本塁打・三塁打・二塁打)	(二)武田 彩香	(二)白石 穂花 佐々木明莉
	(捕手) 安田 光来	(捕手) 白石 穂花			

## 戦評

### 延長11回の死闘、京都西山、投手戦を制し、決勝進出！

京都西山・上村、神戸野田・佐保両先発が互いに一步も譲らず見ごたえある投手戦。神戸野田が押し気味に進めるも延長戦に突入。それでも決着つかず迎えた11回表、9番寺坂がバントで送り一死三塁の好機に1番福井が右翼犠牲フライを放ちこれが決勝点となった。

一方、神戸野田もその裏、無死二三塁と攻め立てたが、相手の粘りにあと一步及ばなかった。2時間を超える試合であったが、引き締まったプレイを見せた両チームの選手にエールを贈りたい。

球審	道中 和人	一塁塁審	吉本 雅一	記録員	山田巳千代
二塁塁審	尾上 陽祐	三塁塁審	佐藤 芳明	放送員	
副審1		副審2			

# 第60回近畿高等学校ソフトボール選手権大会（女子の部）

《大会速報》 試合番号 26

第3日	2017年07月17日	準決勝	みなと堺グリーンひろばC
開始時間 : 09時23分	終了時間 : 11時12分	中断時間 : 00時間05分	試合時間 : 01時間44分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	安打	失策
市立桜宮高等学校	0	0	0	1	0	0	0								1	5	2
香ヶ丘リベルテ高等学校	0	0	1	2	0	0	x								3	6	1

	市立桜宮高等学校	香ヶ丘リベルテ高等学校		市立桜宮高等学校	香ヶ丘リベルテ高等学校
バッテリー	(投手) ●高橋ひより	(投手) ○浅井 夏海	長打 (本塁打・三塁打・二塁打)	(二)藤田 知優 堂園 萌恵	(二)大岸 夏美
	(捕手) 日吉 里香	(捕手) 松本 華乃			

## 戦評

### オールヒロインの香ヶ丘リベルテ、2年ぶりの決勝へ！

序盤は投手戦で進む中、試合が動いたのは3回裏。香ヶ丘は4番大岸の右中間適時二塁打で先制。追いつかれた4回裏には先頭打者の四球をきっかけに一死二三塁とし、2番川原のセカンドゴロで再び突き放すと更に重富のスライズで加点。そのまま逃げ切りインターハイ予選決勝の借りを返した。

一方、桜宮は4回表、3番藤田の左越二塁打と四球などで二死一三塁とし、6番堂園の投手足元を抜く中前打で一旦は同点に追いついたが、エース浅井を中心に隙を見せなかった香ヶ丘野手陣の好守備にあと一步及ばなかった。

球審	西崎 伸弘	一塁塁審	中嶋 和也	記録員	田中 翔子
二塁塁審	高岡 昇	三塁塁審	中島 雅一	放送員	
副審1	岩田 憲夫	副審2			

# 第60回近畿高等学校ソフトボール選手権大会（女子の部）

《大会速報》 試合番号 27

第3日	2017年07月17日	決勝	みなと堺グリーンひろばC
開始時間：12時30分	終了時間：14時12分	中断時間：00時間00分	試合時間：01時間42分

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計	安打	失策
京都西山高等学校	3	0	1	0	2	0	0								6	11	0
香ヶ丘リベルテ高等学校	0	0	0	0	1	0	0								1	10	2

	京都西山高等学校	香ヶ丘リベルテ高等学校		京都西山高等学校	香ヶ丘リベルテ高等学校
バッテリー	(投手) ○上村 紗輝  (捕手) 安田 光来	(投手) ●浅井 夏海  (捕手) 松本 華乃	長打 (本塁打・三塁打・二塁打)	(二)福井 晴日② 植田きらら	(二)原 磨海

## 戦評

### 京都西山、全員ソフトで9年ぶり5度目の優勝！

西山は1回表、先頭の福井がいきなり右中間へ二塁打。続く武田の絶妙なバントが安打となると、上村のスライズであっさり先制。さらに植田の適時二塁打などで2点を追加した。3回にも代打戎崎がスライズを決めると、5回にも4安打で2点を加えリードを広げた。守っては連投の上村が毎回のように走者を許すものの、バックの好守に助けられ最少失点に抑えて栄冠を勝ち取った。

一方、香ヶ丘は毎回安打で攻め立てたが、5回、大岸の犠牲フライによる1点だけに抑えられ逆転劇を演じることはできなかった。

球審	玉井 昇進	一塁塁審	中嶋 和也	記録員	藤田 紀世
二塁塁審	尾上 陽祐	三塁塁審	吉本 雅一	放送員	
副審1	道中 和人	副審2			